

# キッズだより

令和7年2月 第35号  
たかといちどいキッズ



## 子は親の鏡

著書ドロシー・ロー・ノルト

### 「守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ」

『強い子』と聞いてどのようなイメージを思い浮かべますか？健康で体が強い子、感受性の強い子、芯の強い子、心（メンタル）が強い子などが思い浮かんできそうです。この本では、強い子＝自信をもてる子、という意味合いで、書かれています。『親子の絆が強い信頼で結ばれていれば、子どもの心は安定し、自信が生まれます』という文章がありました。たとえどんなことがあっても、親は、自分の味方になってくれる。どんな時にも自分を守り支えてくれる、そう思えば子どもは親を心から信じることができると思います。

私が学生だった頃、学校に行きたくない時がありました。親は何も尋ねようとしませんでした。ただ、「今日は休んでもいい。」とだけ言われました。色々聞かれると思っていたので、呆気に取られました。でもそれが私にとっていい対応だったのだと思います。無理に連れて行こうとしたなら、きっと大反発していたと思います。数年後この時のことを話す機会がありました。「いろいろ聞きたかったけど、言いたくなったら言いに来るから待っていた。次の日にも行かなかったら話しをしようと思っていた」と言っていました。私を信じてくれていたのだと感じました。

何が正しくて何が違うのか、感じることは、人それぞれ違います。子どもの傍にいる大人たちが、子どもの気持ちを汲み取り、守り、認めていけば、子どもも大人を信じ、自分を信じるようになります。子どもは試行錯誤をしながら成長していきます。「自分でやってみよう」「どうしたらできる？」「これがダメだったらこうしたらいい？」など、何回もやってみて失敗を重ねながら、目標に向かって挑戦していきます。子どものその姿を支え続けてほしい、と思います。

先月の保護者会・講演会に参加していただきありがとうございました。「今の自分は、何点ですか？」と問い掛けられ、「うーん、45点ぐらい？」と思っていたら、『今の自分をまるごと認め100点・はなまるをつけよう』と話されていました。結果がすべてではない、過程も大切に。頑張ったことが、はなまるだそうです。始めに、自分につけた点数は、なりたい自分の点数の設定が高いから、点数が低くなりがちだとも言われていました。3人グループになり、今頑張っていること・続けていること・心がけていることを話し合い、お互いに認めあう時間を持ちました。認めてもらえるって大人になっても嬉しいことですね。HAPPYな時間を共に過ごせました。ありがとうございました。北坂 美知子



## 2月の予定



節分の会	3日（月）	誕生会	5日（水）
救急訓練	7日（金）	発育測定	21日（金）
避難訓練	25日（火）	体育あそび	27日（木）

※2歳児のみ





あけび・ひかりぐみ



戸外から帰ってきた時やご飯前になると、自分で水を出して手を洗おうとしています。保育士が「見ていてね」と声をかけ、手をこすって洗っている姿を見せると、真似て手をこすろうとしていました。手を添えて一緒に洗ったり、援助したりすることで、今では自分で手をこすったり、洗い終わると手を振って水滴を落としたりする姿が見られるようになってきました。今後も一つひとつ丁寧に声をかけ、綺麗になった心地良さが感じられるようにしていきます。

言葉が増えてきて、自分の思いを言葉で伝えようとしています。思いを受け止め、ゆっくりと話しかけ、保育士と簡単な言葉で会話を楽しめるようにしていきたいと思います。



ごしごし



きれいになったね



今月のねらい：保育士と簡単な言葉で会話を楽しむ



ひかりぐみ



ままごとの好きな具材で料理を作り、「あーん」と食べさせてくれる子どもたち。「美味しい！」と言って食べる真似をすると、とても嬉しそうにしています。机の上が料理でいっぱいになり、お店のようになっていました。そこで「いらっしゃいませ」と保育士が店員になると、「これ、ちょうだい」とお客さんになりきる子どももいました。真似をして店員や客になりきったり、好きな具材を使って料理したりすることを喜んでいます。今後は、友だちと一緒にままごと楽しめるように仲立ちしていきます。

「いただきます」と挨拶をし、嬉しそうに食事をしています。みかんグループで食事する時間を大切に、会話をしながら楽しく食べられるようにしたいと思います。



どうぞ！



トントン



ませませ♪

今月のねらい：食事に期待をもち、保育士や友だちと一緒に食べることを楽しむ



ひかりぐみ



少しずつマナーを意識して食事ができるよう、正しいスプーンの持ち方や、皿に手を添えることを知らせ、援助してきました。「スプーンはこうやってもつの？」「みて！せんせいといっしょ」と言い、保育士の真似をして食事することが増えました。ひかりぐみは、にじぐみのともだちを見て、スプーンの持ち方を意識したり、食器を両手で持って汁物を飲んだりするようになりました。やってみようとする姿を認めることで、子どもたちも嬉しそうに食事しています。引き続き、食器の持ち方や椅子の座り方などを丁寧にらせていきます。

様々な食べ物に興味をもち、ままごとを楽しんでいます。今月は、お店屋さんごっこをして一緒に遊び、想像を広げながら楽しめるようにしていきます。



おさらをもって  
たべるよ



もってのむよ

こうやってスプーン  
もつんだよね



今月のねらい：保育士や友だちとごっこ遊びを楽しむ



12月



正月遊びを楽しめるようにこまや凧を作りました。好きな色が選べるようにすると、「いろいろがいい」「つぎはあおいろにする」と言いながら自由に描くことを楽しんでいました。実際に作ったこまや凧を使って一緒に遊ぶと、「みてみて」「まわっているよ」「とんでいる」と嬉しそうに保育士に伝える姿が見られました。引き続き子どもの喜びに共感し一緒に遊ぶことで、様々な遊びを楽しめるようにしていきます。

保育士が脱いだ服を畳んでいると「やってみたい」と興味をもつようになりました。畳み方を伝えたり一緒に畳んだりして、自分で衣服を畳めるようにしていきます。



クルクル



たこあがれ～



今月のねらい：衣服を自分で畳もうとする



### 《子育てを支えてくれた詩》



保育園で過ごしていると、時々自分の十数年前の頃と重ね、思い出します。ベビーカーと抱っこ紐で出かけたこと、自転車の前後に子どもを乗せて保育園へ通ったこと、子どもの心配事など。保育士としての知識はあっても、家ではいち母親です。当時の職場は遠方だったので、実家に助けをもらうこともある生活でした。仕事、子育て、家事に追われ、ちゃんとこなせず、いらいらして子どもと余裕をもって関わることができず、自己嫌悪に陥ることもありました。皆さんは、そんな悩んだり落ち込んだりした時の解消法はありますか？誰かに聞いてもらう方法もありますが、かえってもやもやすることもあるものです。私はその頃、心に響く二つの詩に出会いました。

一つは「最後のとき」(作者不詳)という詩です。初めてこの詩を読んだ時は涙がぼろぼろ出てきました。今は涙なく読めますが、その時の私には心にぐっと刺さった感覚を覚えています。ぜひ検索して読んで欲しいです。内容は、毎日ご飯を食べさせたり寝かしつけをしたりする繰り返しの日々や、子どもと手を繋いで歩く日々も、これが最後という時がやってくるというものです。もう二度とないのだと気付いた時には子どもは成長し、その瞬間はあっという間です。そう思うと、大変な日々や子どものことをとても愛おしいと思えました。子どもをぎゅっと抱きしめたくなる詩です。

もう一つは「今日」(作者不詳・伊藤比呂美訳)という作品です。洗い物が溜まり、散らかった部屋を見て、自分ができなかったことに自己嫌悪になったとしても、かけがえのない我が子のお世話をし、遊び、たくさん慈しんでいたのならそれで大丈夫なんだよと寄り添ってくれる内容です。『(中略)この子のためにすごく大切なことをしていたんだって。そしてもし、そっちのほうじゃなくなるとしたら、わたしはちゃんとしたわけだ』という最後の一文に救われます。

保育園時代が終わっても、小学生、中高生と次々に違う大変さが続きます。今でも節目節目で悩み落ち込むたびにこの詩が頭に浮かびます。この瞬間もずっと続くわけではないと感じるたびに、子どもの成長を実感し、私も頑張っ乗り越えようと励まし救ってくれる言葉を今後も大切にしたいです。

皆さん、今日も子育て、家事、お仕事お疲れ様です。たまには「よくやってるよ」と自分を誉めながら頑張っていきたいですね。



民安 暁子